

うめきた2期 計画概要

無断転載・無断利用を禁ず

2019年9月
阪急阪神不動産

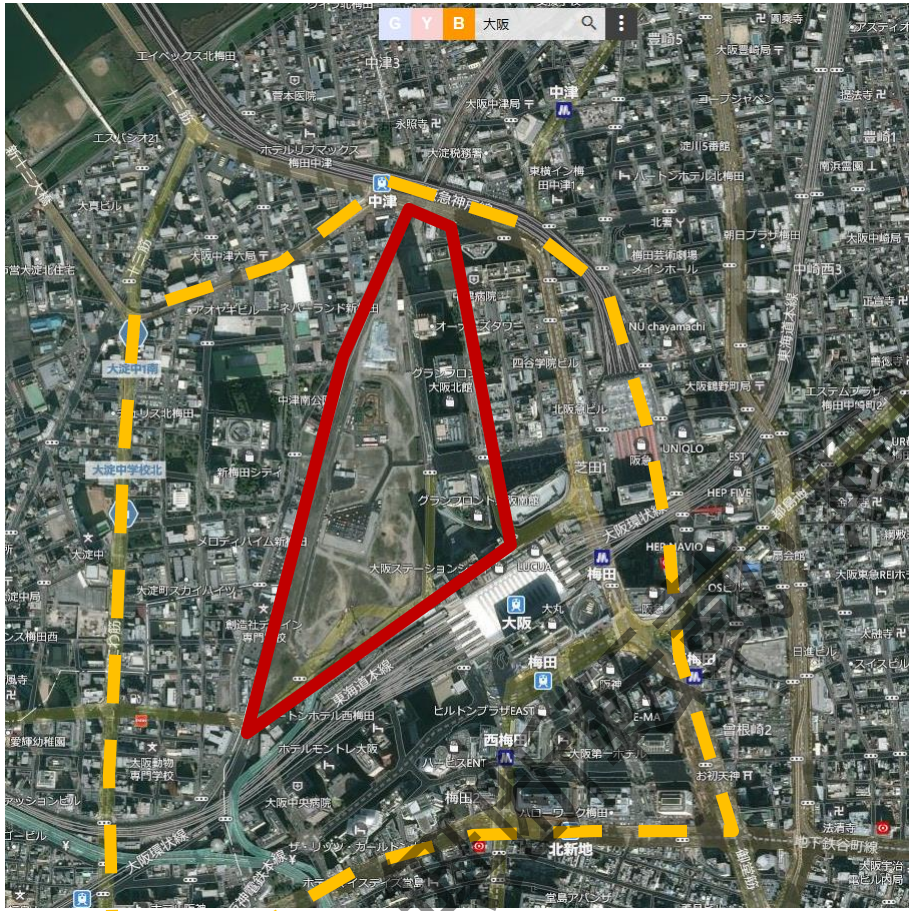
うめきた位置図

アジア・世界とつながる
グローバルな都市“うめきた”

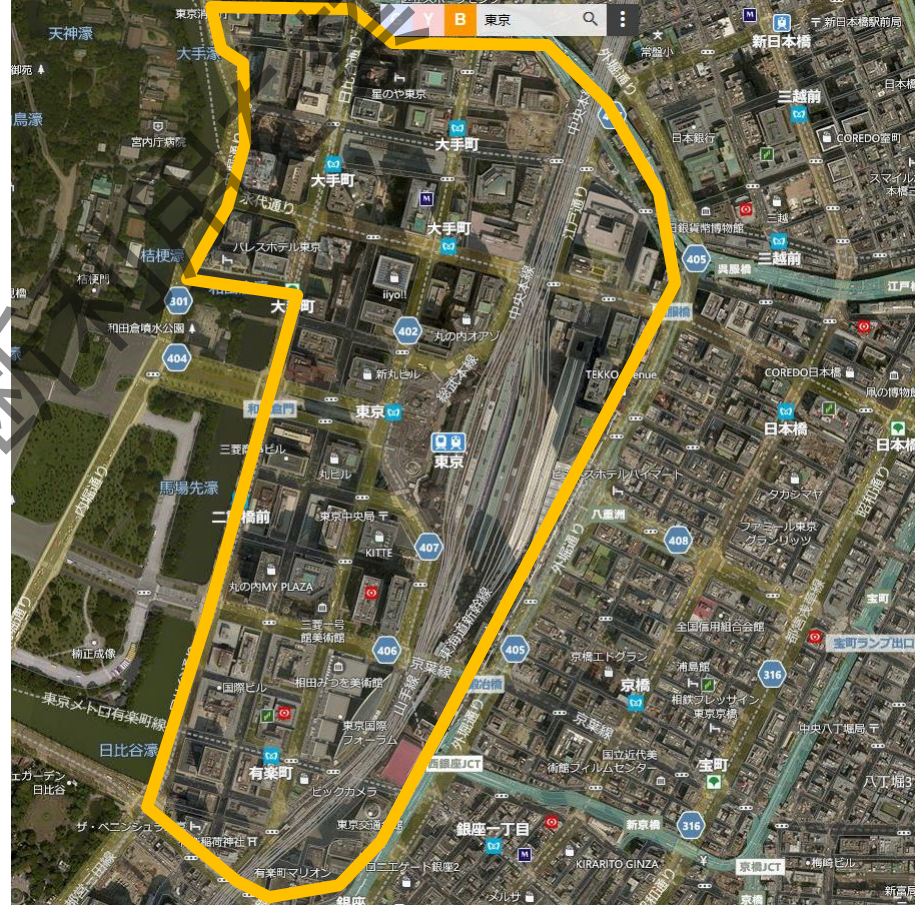


うめきた2期地区のスケール

大阪・うめきたエリア (約24ha)



東京・大丸有エリア (約120ha)



➤ うめきた2期 開発事業者

大阪ガス都市開発株式会社 オリックス不動産株式会社
関電不動産開発株式会社 積水ハウス株式会社
株式会社竹中工務店 阪急電鉄株式会社
三菱地所株式会社 三菱地所レジデンス株式会社
うめきた開発特定目的会社

➤ 設計・運営事業者

株式会社三菱地所設計 株式会社日建設計
有限会社SANA A事務所
Gustafson Guthrie Nichol Ltd.
株式会社日比谷アニス 阪急阪神不動産株式会社

配置・用途計画

南街区みどり

国際交流と世界発信を促す都市機能集積

約 **3.0** ha

都市公園

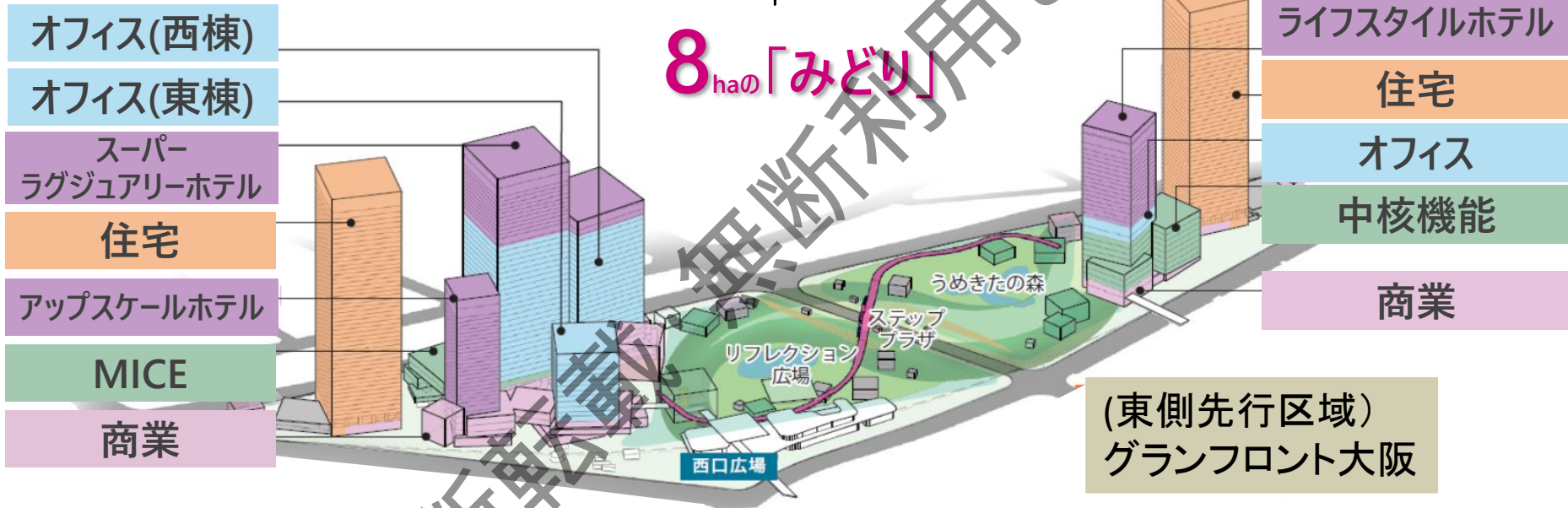
多様な市民活動を促す3つの広場空間

約 **4.5** ha

北街区みどり

新産業創出・産学官民交流を促す都市機能集積

約 **1.6** ha



- オフィス(西棟)
- オフィス(東棟)
- スーパーラグジュアリーホテル
- 住宅
- アップスケールホテル
- MICE
- 商業

- ライフスタイルホテル
- 住宅
- オフィス
- 中核機能
- 商業

(東側先行区域)
グランフロント大阪

用途別延床面積	オフィス	ホテル	
オフィス	: 約176,000㎡	ホテル	: 約 91,000㎡
商業	: 約 41,400㎡	中核機能	: 約 33,600㎡ (MICE含む)
公園施設	: 約12,500㎡	住宅	: 約154,700㎡

※計画中的のものであり、変更される可能性があります

全体鳥観図



想定事業スケジュール (コンペ提案時)

2018年7月	事業者決定
2020年秋	新築工事着工
2021年	イノベーション支援組織設立
2023年	新駅開業 公園運営＋エリアマネジメント組織設立
2024年夏	概成 先行まちびらき
2027年	全体竣工

都市のコンセプト ～みどりとイノベーションの融合～

Osaka "MIDORI" LIFE 2070 の創造

①

「みどり」と融合した
生命力と活力あふれる
都市空間

②

ひらめきや創造に
つながる
多様で寛容な場づくり

③

新たな価値が
うめきたから関西へ
国内外へと広がる
マネジメント

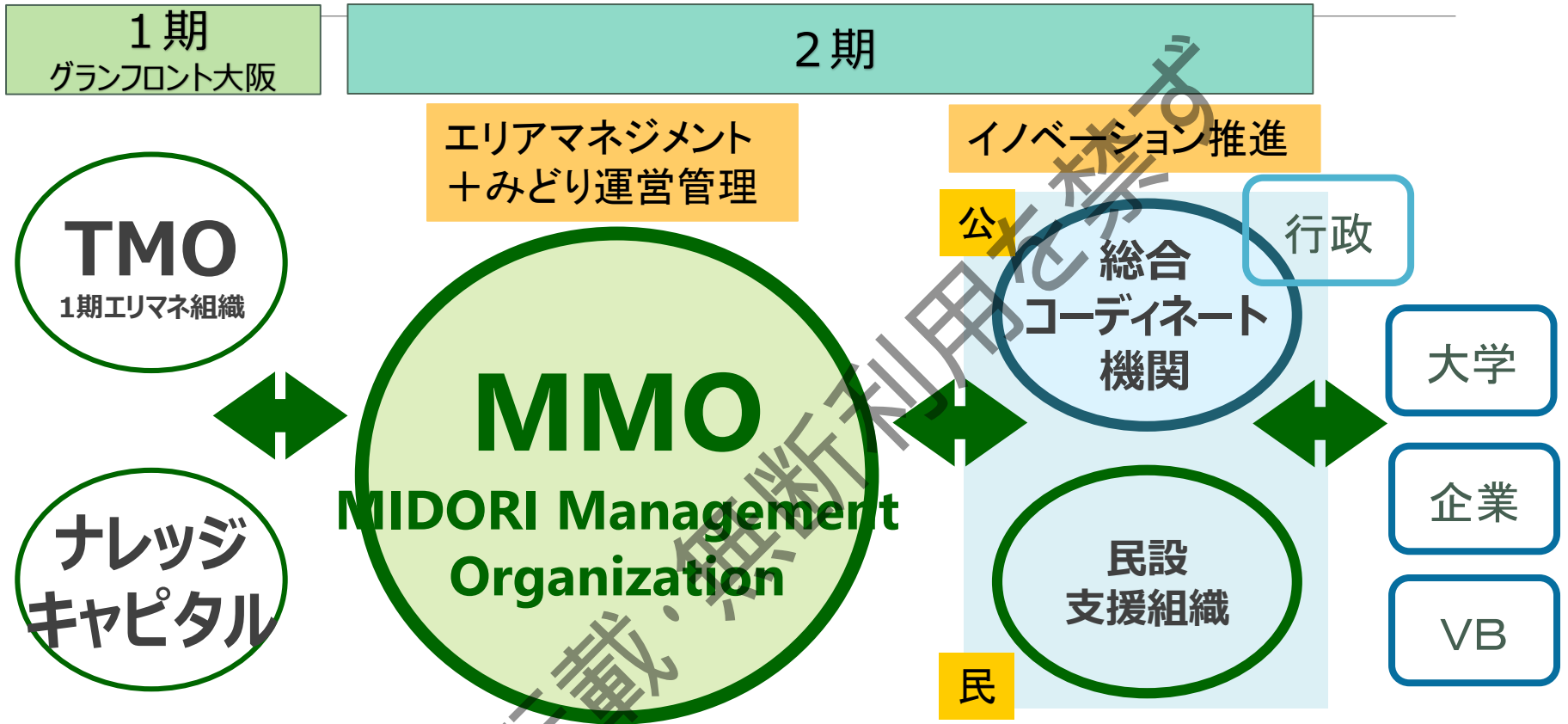
私たちは、今までの都市づくりのパラダイムを超えて、産学官のセクターはもとより、国籍

の違いを超えて知恵を分かち合い、を発揮することで、の構築を目指します

活力あふれる都市空間に、寛容な場をつくり、国内外へと広がっていくをつくりま



パークマネジメントとエリアマネジメントの一体組織



1期・2期連携した
まちづくり

「みどり」と「イノベーション」
の融合拠点

公園と民間宅地の
一元的な運営

「うめきた共創エコシステム」を構築

まちでの新たな体験やサービス／生活者のQOL向上

大学
シーズ

社会
ニーズ

企業
ニーズ

「みどり」

共創キューブを
はじめとした
共創空間

施策4

ネクスト
イノベーション
ミュージアム

施策7

事業創出マネジメント

施策6

ニューエデュケーションプログラム（人材育成）

施策1

ヒューマン
データ活用
基盤・ラボ

施策3

共創
コミュニティ

施策2

市民共創クラブ

支援

事業化
プロジェクト

の組成・誘致

<生み出す> ↓ <育てる>

新産業創出

施策5

グローバル
エコシステム
ネットワーク

技術と人をつなぐ共創コミュニティ（活動例）

スポーツ
ウェルネス分野

個人の健康増進とスポーツ産業の領域拡大を牽引

新サービス・ビジネスの開発

共創コミュニティ

企業

ベンチャー

大学

アクティビティ
データ提供

ヒューマンデータ
提供

ヒューマンデータ
活用基盤

「みどり」の中の
プログラム

ジム、ヨガ

ランニングステーション

新サービス

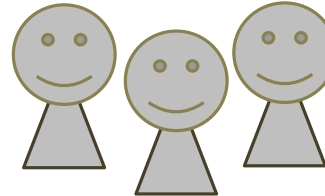
スポーツ教室

スポーツイベント

フィードバック

- ・健康状態や効果評価結果
- ・アドバイスや推奨メニュー
- ・商業・貢献ポイント など

まちの利用者



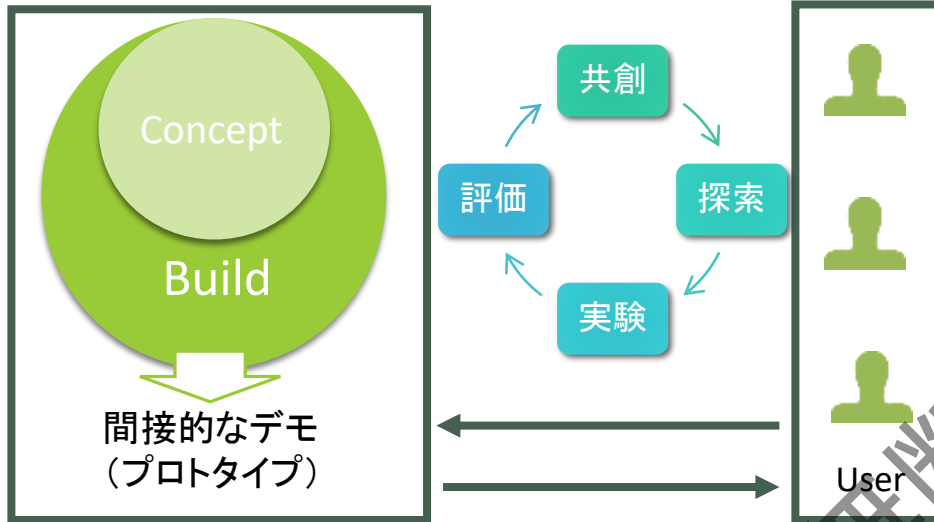
健康計測
ステーション

健康計測
ステーション
利用

「みどり」
プログラム利用

(参考)都市型リビング・ラボを目指して

社会的実験の場(リビング・ラボ)



【リビング・ラボとは】

リビング・ラボは1990年代前半に米国において、新技術や製品とユーザとのふれあいを観察・分析する施設として生まれ、2000年ごろに、北欧で広がり始めた。そこでは管理された環境下での行動観察の場から実際に使用する場での観察へと変化し、さらに、このような機能だけでなく、ユーザがサービスの企画に参画するような共創という活動もコンセプトに含まれるようになった。

※ただし、最初からのユーザと一緒にサービスを企画する必要はなく、左図に示すサイクルを数回まわすことにより、コンセプトを固め、プロトタイプを構築し、最終的なサービスを固め、提供することになる。

【海外事例: Sidewalk Toronto Pavilion】

まちの未来像を示す場所として、住民に検討中のアイデアを紹介し、

フィードバックを得る場としてパビリオンを開設。スタジオ、展示、ワークショップスペース等としても活用。



うめきた2期全体像（大阪駅上空から）

新大阪・
十三方面へ

中津エリア

うめきた2期と今後の交通インフラ整備によりホテル・シネマ・クラブする中津駅周辺への「みどり」空間の導入。駅前公園等を活用した「MIDORI LIFE」施設イベント、公園を核として上るプロムナード形成。

大淀エリア

うめきた2期の市民客用エリア。隣接する三角公園・新梅田シティの「新・里山」を連携させ、市民が集う都市の里山ゾーンを形成。里山ゾーンの活動への周辺住民の参画を通じ、「MIDORI LIFE」を波及。

茶屋町エリア

先行開発区域の「ゆめきた」オープンカフェに隣接する「MIDORI LIFE」を、専ら「船場道」の整備に伴い順次展開。
3期・4期、梅田駅小町口、将来的に阪急梅田駅再開発と連携。

西梅田エリア

西梅田開発協議会と連携し、中央郵便局新地開発及びうめきた2期とつながる南北直行道延伸整備への「みどり」空間の積極的導入を促進。
西梅田周辺から福島・中之島方面へ「みどり」の回遊ルートを形成。

中之島・
なんばへ



ありがとうございます